

平成18年度農作物病虫害発生予察注意報第2号

平成18年8月14日
山 口 県

病虫害名 **ダイズの吸実性カメムシ類**（ホソヘリカメムシ、イモジカメムシ、アオカメムシ等）

1 発生地域 **県内全域**

2 発生時期 **8月中旬～9月（莢伸長期～子実肥大期）**

3 発生程度 **多**

4 注意報発令の根拠

8月8～10日の巡回調査による払い落とし調査では、発生ほ場率は55.6%（平年35.5%）、1㎡当たり虫数は0.32頭（平年0.15頭）で過去5年間で最も多かった昨年と同程度であった（図）。

5 防除方法

（1）防除時期

莢伸長最盛期（開花期後30日頃）と、子実肥大完成期（開花期後45～50日頃）の防除を実施する。

播種月日	開花期	防 除 時 期	
		莢伸長最盛期 （開花期後30日頃）	子実肥大完成期 （開花期後45日頃）
6月 3日	7月23日	8月4半旬	9月2半旬
6月14日	7月30日	8月6半旬	9月3半旬
6月21日	8月 5日	9月1半旬	9月4半旬
7月 4日	8月11日	9月2半旬	9月5半旬

（2）防除薬剤

平成18年山口県農作物病虫害・雑草防除指導基準による（表）。

6 防除上注意すべき事項

（1）防除の際はダイズの莢に薬剤が充分かかるよう散布する。

（2）防除に当たっては使用時期等の農薬使用基準を遵守する（表）。

（3）農薬散布の際は、周辺農作物にも適用のある農薬の使用や、風向・風速に注意し、必要以上に散布機の圧力をあげない等の取組を実践することで、農薬の飛散による事故が発生しないよう注意する。

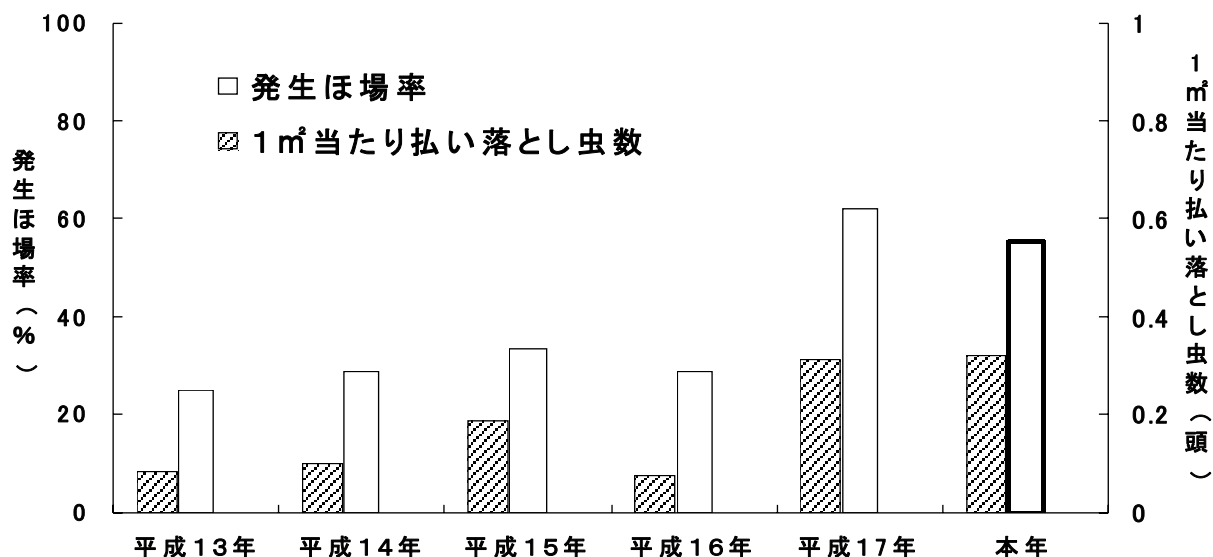


図 巡回調査による年次別カメムシ発生ほ場率と1㎡当たり虫数

表 「ダイズの吸実性カメムシ類」対象薬剤一覧

薬剤名	希釈倍数 使用量(10a)	使用時期 (収穫前日数)	使用回数
アグロスリン乳剤	2000倍	7	3
バイジット乳剤	1000倍	4 5	3
トレボン乳剤	1000倍	1 4	2 豆類(種実)で適用あり
スミチオン乳剤	1000倍	2 1	4
エルサン乳剤	1000倍	7	2
MR. ジョーカー粉剤DL	4 k g	7	2
カルホス粉剤	4 k g	1 4	2
トレボン粉剤DL	4 k g	1 4	2 豆類(種実)で適用あり
スミチオン粉剤2	4～6 k g	2 1	4
エルサン粉剤2DL	4 k g	7	2
エルサン粉剤3DL	3～4 k g	7	2
パーマチオン水和剤	1000～2000倍	2 1	3 (フェンバレート3回、MEP4回)
マトリッジョーカー粉剤DL	4 k g	7	2 (クロマフェジト [®] 3回、シラフルオフェン2回)
ミミックジョーカー粉剤DL	3 k g	1 4	2 (シラフルオフェン2回、テブフェジト [®] 3回)

(参考) 用語解説

開花期とは、全株数の40～50%の株が開花始(初めて開花を見た日)に達した日
 半旬とは、旬日の半分であり具体的には次のとおり。

1半旬は1～5日、2半旬は6～10日、3半旬は11～15日、

4半旬は16～20日、5半旬は21～25日、6半旬は26～30日